

岩手山の火山活動解説資料

仙台管区気象台
地域火山監視・警報センター

＜噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から1（活火山であることに留意）に引下げ＞

JAXAの衛星「だいち2号」及び「だいち4号」のデータを用いた国土地理院による干渉SAR解析結果によると、2024年以降、大地獄谷付近のごく浅いところの膨張による地殻変動が観測されていましたが、2025年10月以降はノイズレベルを超える変動は見られません。また、岩手山周辺の傾斜計やひずみ計、GNSS連続観測で2024年2月頃から2026年4月頃にかけてみられていた山体の深いところの膨張を示す地殻変動や2026年5月下旬から7月中旬にかけて観測された山体膨張を示す地殻変動は、現在停滞しています。

2024年5月以降繰り返し観測されていた黒倉山付近や山頂付近の地震活動は2026年7月中旬以降少ない状態が続いています。その他の観測データにも特段の変化は認められません。

これらのことから、西岩手山（大地獄谷・黒倉山から姥倉山）の想定火口から概ね2kmの範囲に影響を及ぼす噴火の可能性は低くなったと判断し、本日（27日）11時00分に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から1（活火山であることに留意）に引き下げました。

【防災上の警戒事項等】

想定火口内では、火山灰、火山ガス、熱水等が突発的に噴出する可能性があります。特に大地獄谷付近では、火山ガスの噴出や地熱の高まりがみられていますので注意が必要です。

火山活動に十分注意し、地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

○ 活動概況

・地殻変動の状況（図1～2、図3⑦）

JAXAの衛星「だいち2号」及び「だいち4号」の2023年11月から2026年7月の観測データを用いた、国土地理院による干渉SAR解析¹⁾の結果では、2024年から大地獄谷周辺及び岩手山西部周辺において衛星に近づく変動が見られていましたが、2025年10月以降、ノイズレベルを超える変動は見られません。そのため、大地獄谷付近のごく浅いところの膨張は、概ね停止していると考えられます。

また、岩手山周辺の傾斜計やひずみ計、GNSS連続観測で、2024年2月以降に観測されていた東岩手山のやや深部の開口割れ目や山体西側のやや深部の膨張を示す地殻変動についても、2026年4月初め頃から停滞していました。5月下旬からは山体膨張を示す地殻変動が再び観測されましたが、7月中旬頃からは停滞しています。

1) SARとはSynthetic Aperture Radar（合成開口レーダー）の略称であり、人工衛星や航空機などに搭載されたアンテナから電波を地表に向けて照射し、地表からの反射波を捉えることで、地形の形状及び性質を画像化することができます。干渉SARとは同じ場所を計測した時期の異なる2回のSARデータの差をとる（電波を干渉させる）ことにより、地表の変動を詳細に捉える手法のことです。InSAR（Interferometric SAR, InSAR）ともいいます。干渉SARではアンテナー地表間の距離変化量が観測地域で面的に得られます。

・地震や微動の発生状況（図3②～⑥）

2024年5月以降繰り返し観測されていた黒倉山付近や山頂付近の地震活動は2026年7月中旬以降、少ない状態が続いています。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページで閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/report/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/kazan/kazanyougo/mokuji.html>

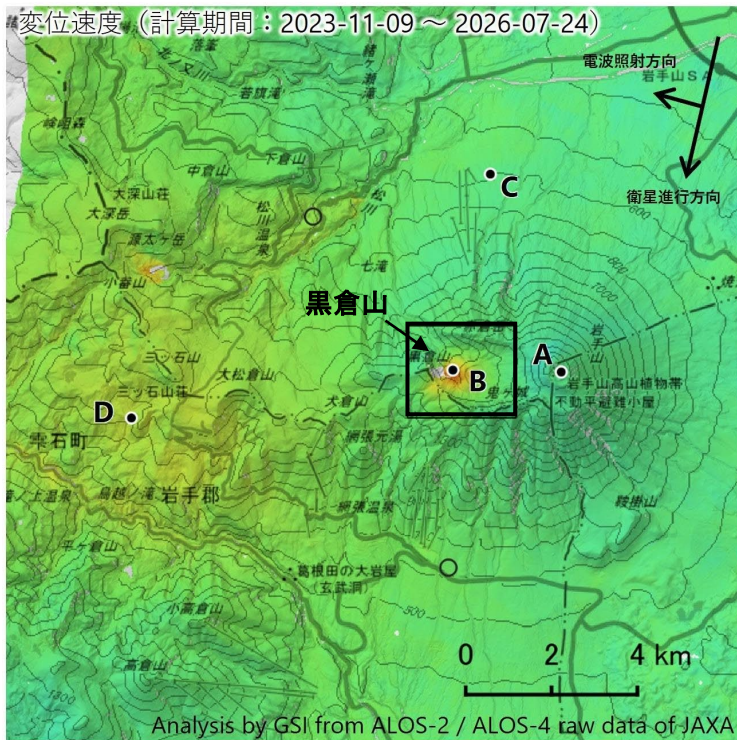
この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」を使用しています。

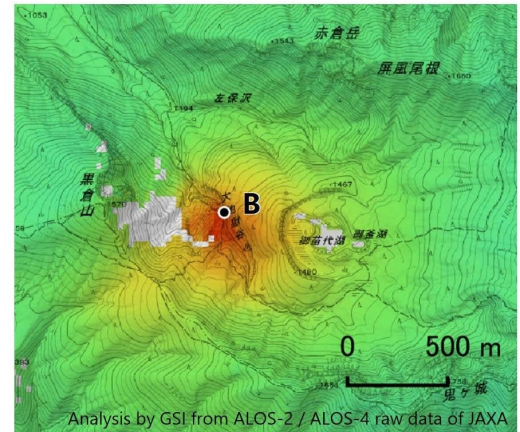
・噴気など表面現象の状況（図3①、⑧、⑨、図4）

黒倉山山頂の監視カメラ等による観測では、大地獄谷の地熱域では地表面温度の上昇やわずかな拡大が認められました。現在も地熱域は拡大した状態を維持していますが、噴気や地表面温度に大きな変化は認められません。

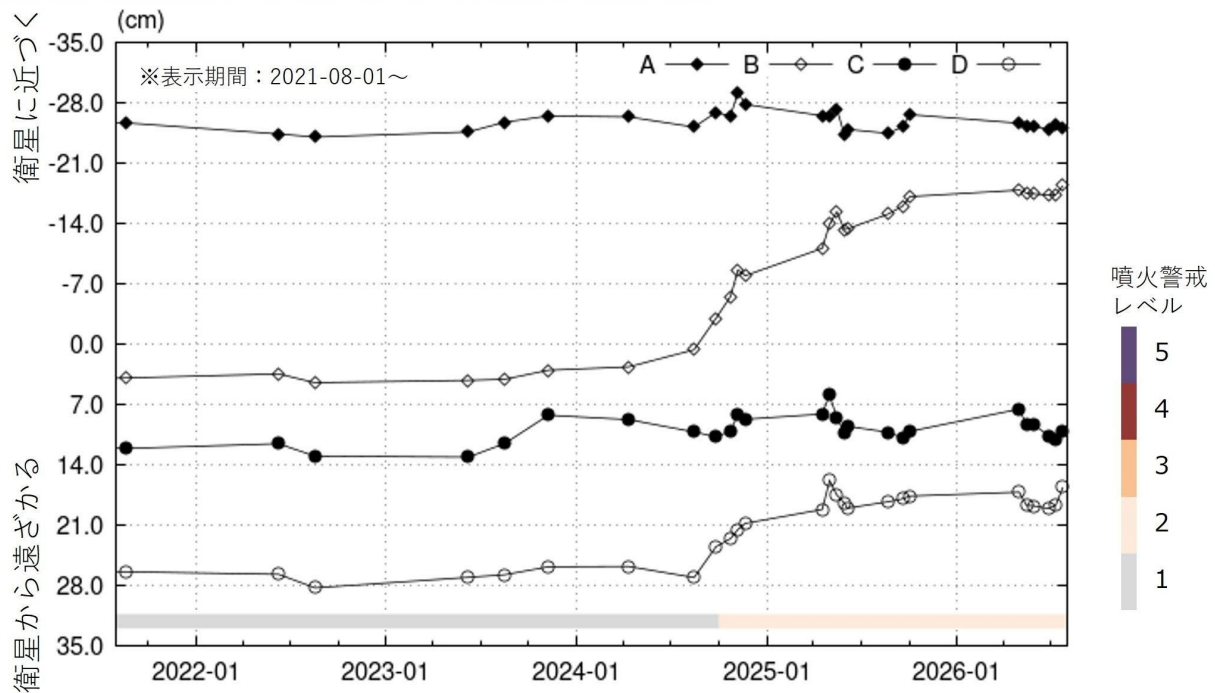
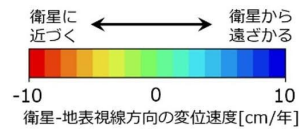
これらのことから、西岩手山（大地獄谷・黒倉山から姥倉山）の想定火口から概ね2kmの範囲に影響を及ぼす噴火の可能性は低くなったと判断し、本日（27日）11時00分に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から1（活火山であることに留意）に引き下げました。



【地点B周辺の拡大図】



※参照点は電子基準点「岩手松尾」付近
○ 国土地理院以外のGNSS観測点
干渉SAR時系列解析手法: SBAS法



地点A・B・C・Dにおける衛星-地表視線方向の変位の時系列

図1 岩手山 国土地理院の干渉SAR時系列解析結果 (南行右観測)
(2023年11月9日から2026年7月24日の変化)

・国土地理院ホームページ「だいち2号」及び「だいち4号」観測データによる解析結果 (2026年8月13日更新) (<https://www.gsi.go.jp/uchusokuchi/20240821lwatesan.html>) に掲載されている図を引用しています。また、図に地名等一部加筆をしています。

JAXAの衛星「だいち2号」及び「だいち4号」の観測データを用いた国土地理院による干渉SAR時系列解析結果 (南行右観測) によると、大地獄谷 (地点B) 及び岩手山西部 (地点D) において、2024年以降、衛星に近づく変動が見られていましたが、2025年10月以降、ノイズレベルを超える変動は見られません。

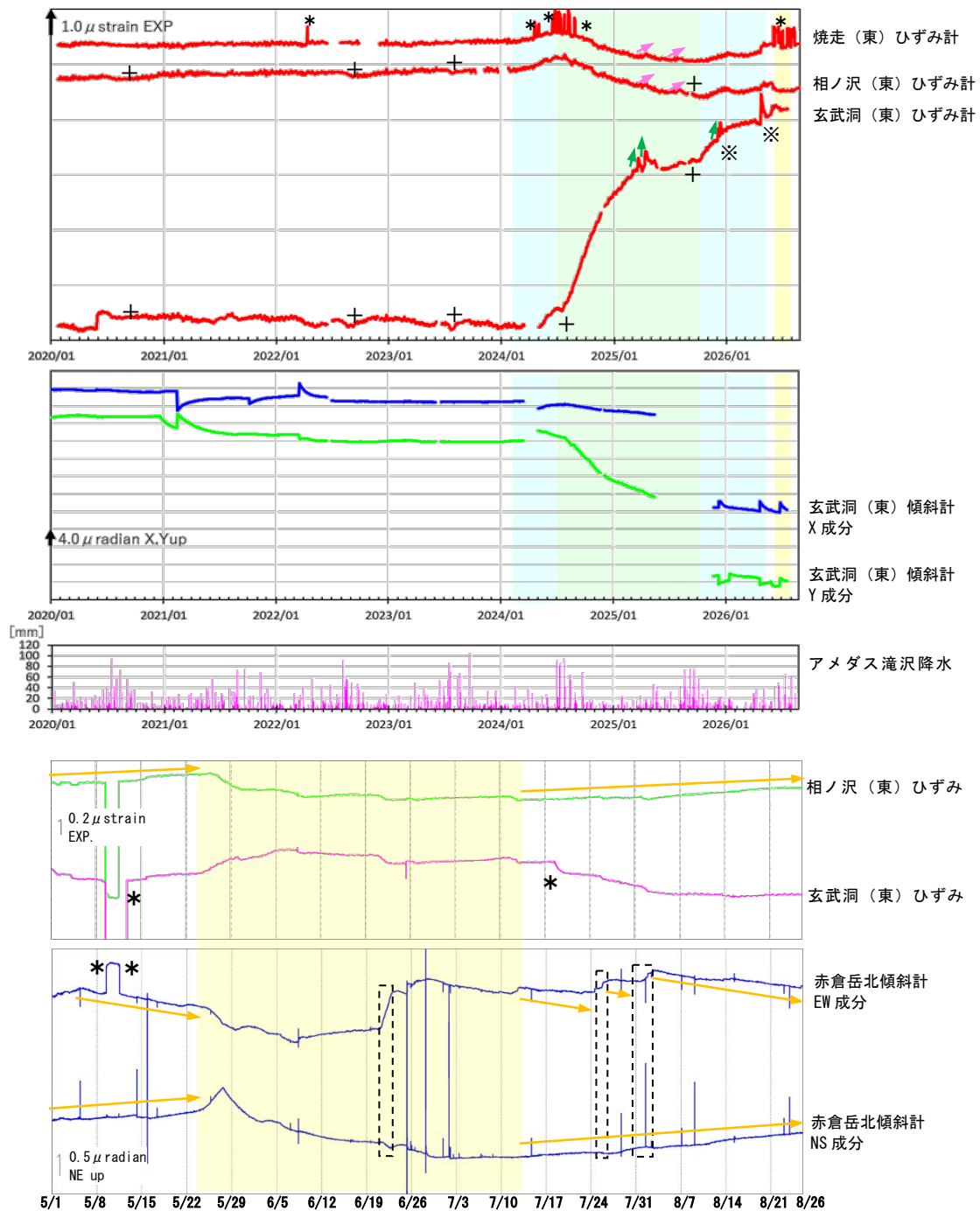


図2 岩手山 ひずみ計・傾斜計（日値・分値・トレンド補正済み）による地殻変動の状況
（2020年1月1日～2026年8月25日）

- ・玄武洞（東）傾斜計のX成分はN43° E方向、Y成分はN133° E方向を正の向きとしています。
- ・焼走（東）及び相ノ沢（東）のひずみ計では、2025年3月中旬から4月上旬と7月中旬から7月下旬にかけて、短期的なひずみ変化がみられました（桃矢印）。
- ・玄武洞（東）のひずみ計では、2025年3月中旬、4月上旬及び12月上旬に膨張の変化率の一時的な増加がみられました（緑矢印）。
- ・空白部分は欠測を示します。（東）は東北大学の観測点を示します。＊は収録機器の不具合による変動です。
※は遠隔地の地震による変動です。＋は降水による影響の可能性がある変動です。
破線枠内にみられる傾斜変動は、降水による影響と考えられます。

岩手山周辺のひずみ計や傾斜計では、2024年2月以降、東岩手山のやや深部の開口割れ目の膨張（水色網掛け部分）や山体西側のやや深部の膨張（緑色網掛け部分）を示す変化が認められていました。これらの変化は2026年4月初め頃から概ね停滞していましたが、5月24日頃から再び山体膨張を示すと考えられるわずかな変化が観測され（黄色網掛け部分）、その後7月中旬頃から停滞しています（橙矢印）。

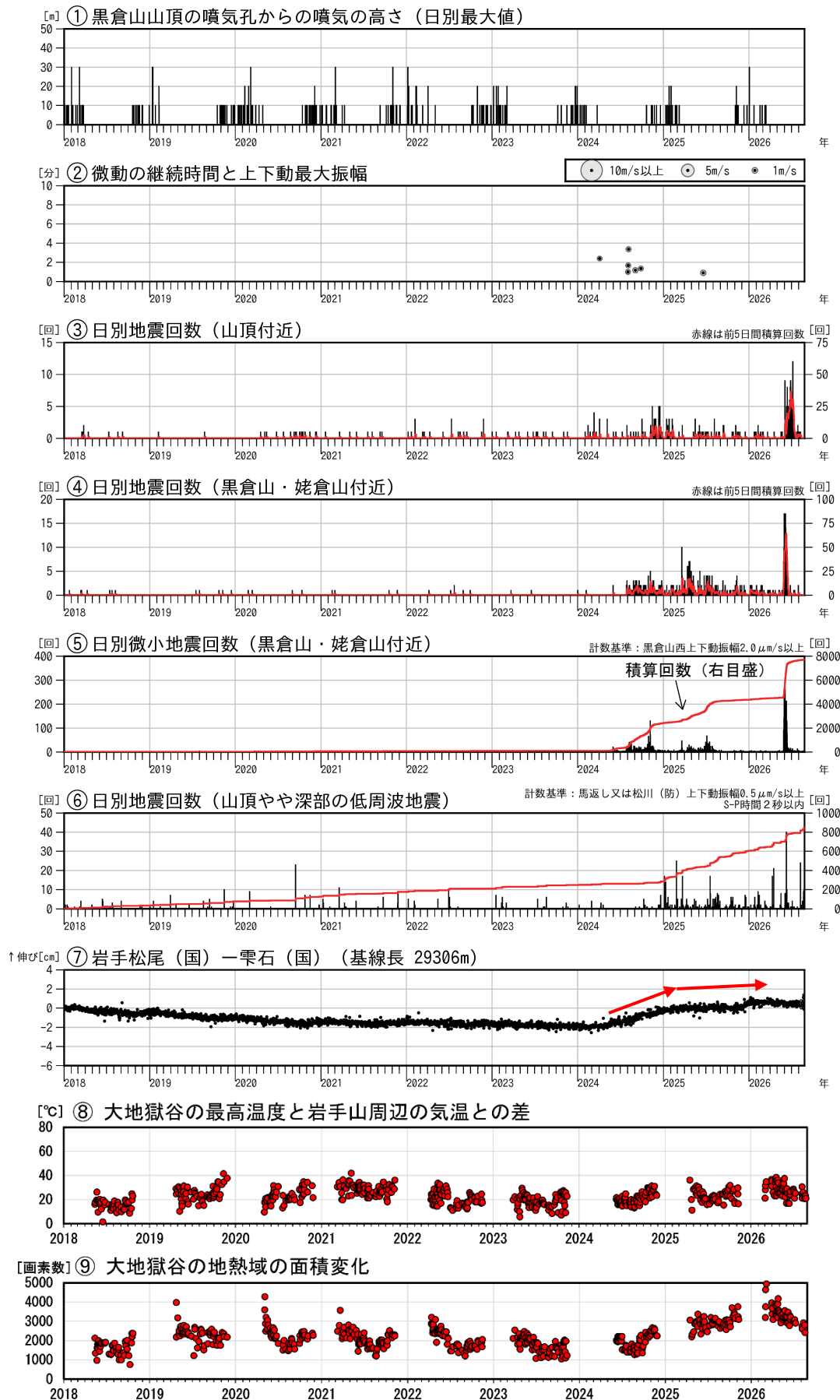


図3 岩手山 火山活動経過図（2018年1月1日～2026年8月25日）

- ・⑤は黒倉山付近で発生した微小な火山性地震のみの日別地震回数です。④の日別地震回数には含まれません。
- ・⑦は図6のGNSS基線⑧に対応しています。
- ・⑧は大地獄谷の地熱域の最高温度と岩手山周辺（アメダス岩手松尾観測点）の気温との差を示します。
- ・⑨は大地獄谷の地熱域内で、非地熱域の平均温度よりも5℃以上高い領域の画素数を示します。

山頂付近では、2020年4月頃から火山性地震の発生頻度がやや高い状態で推移しており、2024年11月から2025年2月上旬にかけてさらに高まりました。それ以降、山頂付近の地震活動は低下していましたが、2026年6月上旬から7月中旬にかけて増加しました（③）。

黒倉山付近では、2024年5月頃から微小な火山性地震の増加がみられ、7月から11月にかけてさらに増加しました。その後も消長を繰り返し、2025年3月から8月、2026年5月下旬から6月中旬にかけて増加がみられました（④、⑤）。

山頂付近と黒倉山付近の地震活動は、現在は少ない状態で推移しています。

GNSS連続観測では、2024年以降、地下深部の膨張に伴う基線長の変化が認められましたが、2025年以降、鈍化傾向となっています（⑦）。

大地獄谷の地熱域では、2025年4月以降にわずかな拡大が認められます。また、2023年及び2024年と比較して、地熱域の地表面温度の上昇が認められます。現在も地熱域は拡大した状態を維持していますが、噴気や地表面温度に大きな変化は認められません（⑧、⑨）。

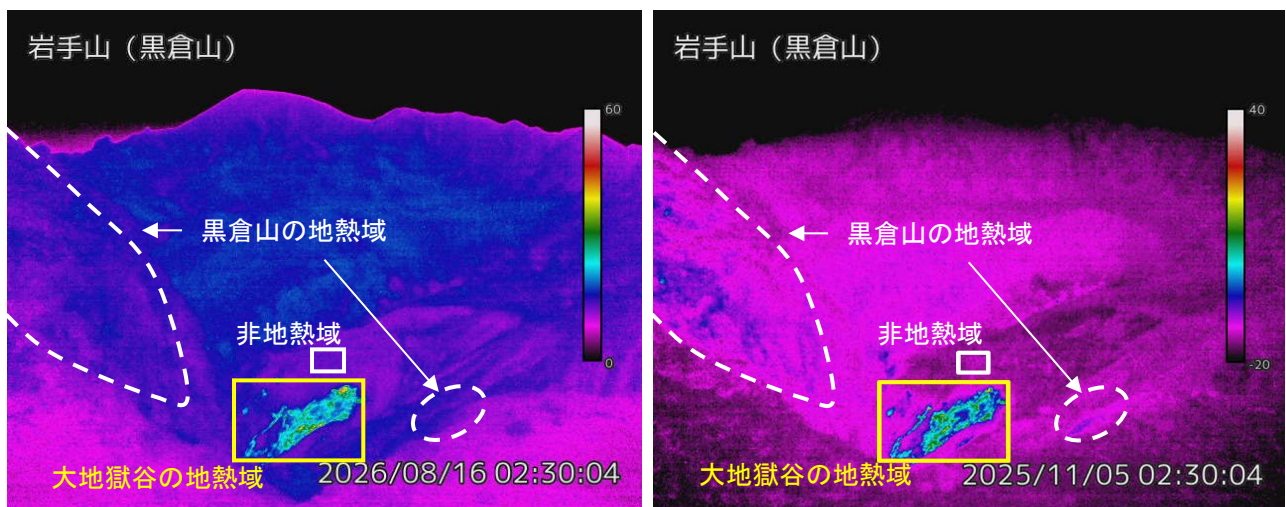


図4 岩手山 黒倉山監視カメラからの地表面温度分布

(2026年8月16日及び2025年11月5日)

- ・黒倉山監視カメラ（大地獄谷の西約500m）で観測された赤外熱画像を示します。
- ・黄色四角と白四角の領域は、それぞれ図3⑧、⑨の解析における大地獄谷の地熱域と非地熱域の領域を示します。

2025年11月の観測結果と比較した場合、地熱域のさらなる拡大傾向は認められません。

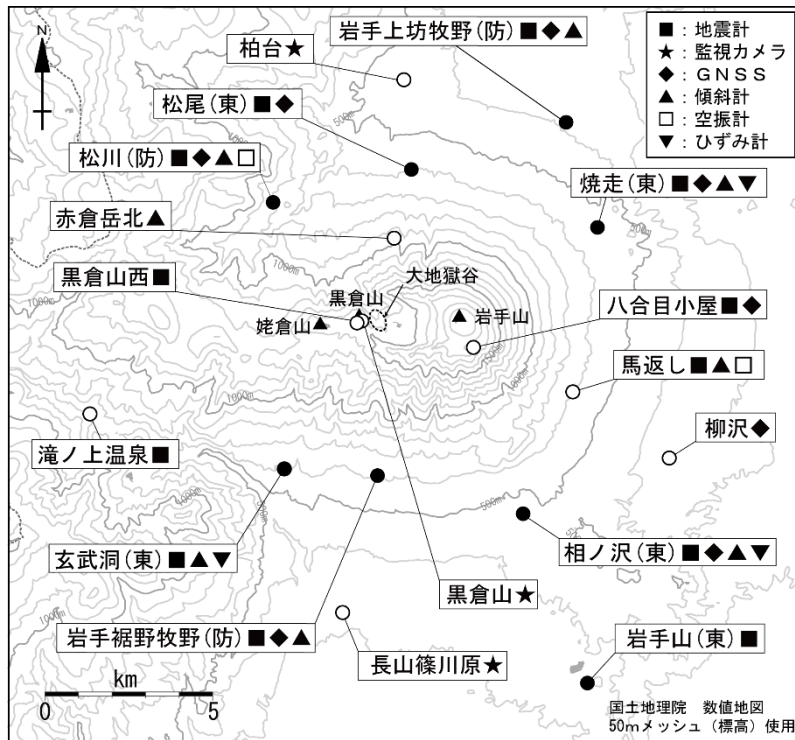


図5 岩手山 観測点配置図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

(東) : 東北大学 (防) : 防災科学技術研究所

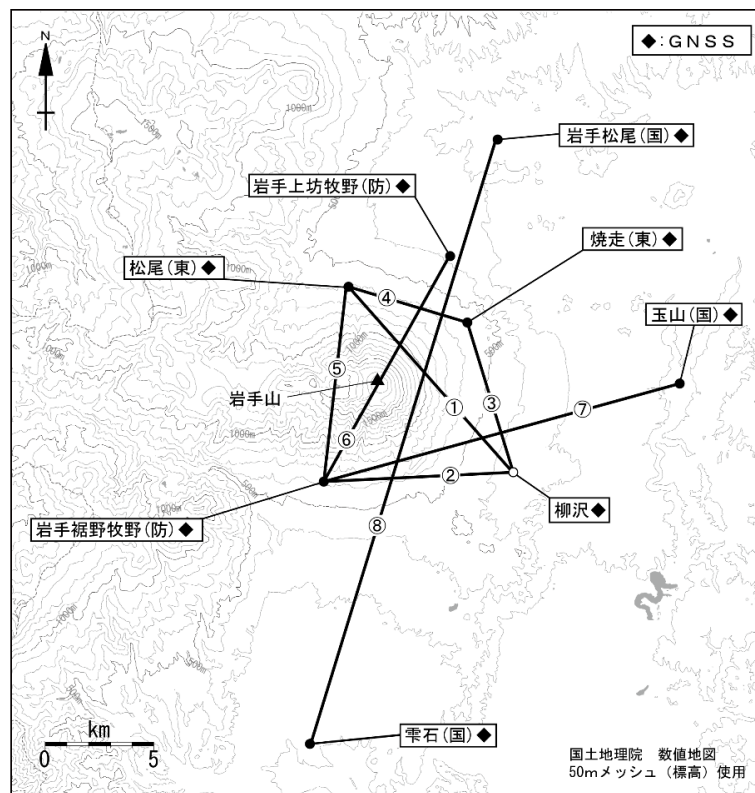


図6 岩手山 GNSS 観測基線図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

(国) : 国土地理院 (東) : 東北大学
(防) : 防災科学技術研究所